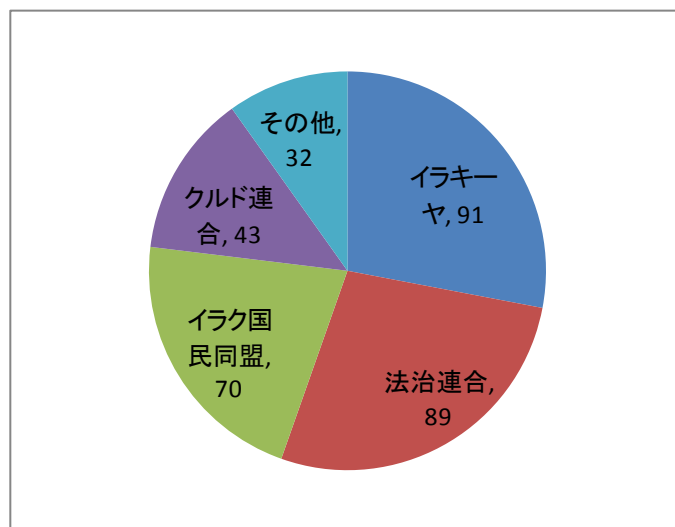


イラク選挙結果発表を受けて

2010年3月28日

大野元裕

27日、イラク高等選挙委員会は、7日に実施された連邦議会選挙結果を発表した。発表されたところによれば、いずれの会派も過半数に相当する163議席を得ることはできなかったが、アラウウィ元暫定政府首相率いるイラキーヤが、僅差でマーリキー首相率いる法治連合をかわして第一党となった。マーリキー首相は再集計を求めているが、選挙に大きな不正は認められないとの現地報道が多いところ、今後の焦点は連立に移ることになる。



イラク憲法によれば、議会により選出された大統領が、大統領に選出された日から15日以内に選挙により第一党になった会派から首相を任命する。

任命された首相は、30日以内に組閣を実施、議会の承認を得る。首相が組閣を行えなければ、別の首相を任命することになっている。

現時点では、アラウウィ氏が新首相になるチャンスを得たが、連立の行方は不透明で、以下のような障害が残されている。

- 1) アラウウィ氏はすべての会派との連立を歓迎するとしており、法治連合との連立も模索しているようだ。しかし、そもそも法治連合もイラク国民同盟も、現時点では選挙および開票に満足していないとしており、素直に選挙結果を受け入る前提で連立協議に入るかは不透明である。法治連合にはマーリキー氏が大きな影響力を有しているが、マーリキー氏とアラウウィ氏は個人的関係が悪い。さらに、世俗ナショナリスト色の強いイラキーヤが、宗派色の強い法治連合と連立できるかにはイデオロギー上のハードルがある。
- 2) イラキーヤとシーア派色の強いイラク国民同盟の連立の可能性はないわけではないようだ。イデオロギー上のハードルは低くないが、反マーリキーでは一致し得る。いかなる連立が成立しようとも、僅差の勝利で第一党となったアラウウィ首相の指導力は限定的となろうが、イラク国民同盟との連立の場合、イラク＝米関係やこれまでマーリキー首相主導の下で進められてきた政策の見直しの可能性は低くない。この連立が

成立する場合、反マーリキー色が強くなり、法治連合の立場は微妙になる。

- 3) アラーウィ氏による他派の切り崩しの可能性もある。「マーリキー党」に他ならない法治連合が切り崩される場合、連立というよりもイラキーヤに切り崩された勢力が移籍する可能性が高く、与党の安定度は高まるかもしれないが、バグダード選出議員は、マーリキー氏個人が集めた得票の恩恵を得ており、瓦解の可能性は高くないかもしれない。その一方でイラク国民連合分裂の場合は、会派を構成する党がまとまって分裂する可能性が高く、つまり、ISCI やサドル勢力の動きがカギになる。さらに、イラク国民連合の背後に見え隠れするイランの影響力も気になる。また、現在のような勢力図では、クルド連合がこれまで享受してきた「キング・メーカー」としての魅力は縮小するはずだが、野党切り崩しが成功すれば、結束力の強いクルド連合の重要性が高まる可能性がある。
- 4) イラキーヤ以外の勢力が結集する場合、アラーウィ内閣は承認されない可能性がある。憲法は組閣できない場合には次に大きい会派から首相を選出するとしているが、承認を得られない場合を含むのかは定かではなく、その後、マーリキー首相就任となるのかはわからない。もしもマーリキー首相誕生となる場合でも連立が不可欠で、これまでのような独裁的な手法をマーリキー首相が継続できるかは疑わしく、政策自体の継続性にも影響が出てくるかもしれない。

いずれにしても明らかなのは、連立政権の樹立の道は容易ではなく、また時間もかかりそうなことである。連立の枠組みが合意されない場合には、首相選出および内閣任命には時間的制約があるため、その前の大統領選出プロセスが開始されないことになり、政治的空白・混乱は不可避である。その場合、政治的混乱でとどまるのか、物理的な不安定や外国勢力の駆け引きが顕著になるかが懸念される。かりに連立の枠組みが長期間定まらない場合、米軍攻撃部隊撤退が予定されている 7 月に実施できず、オバマ政権の対外政策そのものの見直しを強いる可能性も否定できない。

また、新政権の政策についても連立のパワー・バランスと、だれが最終的なキング・メーカーになるかによって変わってくる。イラキーヤは、スンニー派の一部政党がボイコットしたことにより漁夫の利を得た形になっており(ニノワ県 20 議席、タアミーム県 6 議席、ディヤラ県 8 議席、サラフッディーン県 5 議席、アンバール県 11 議席)、スンニー派の意向、特にタアミーム県キルクークを巡るクルドとの問題については、微妙な立場におかれることになろう。

マーリキー首相の手法と治安等に対する成果への疑問は根強いが、法治連合はバグダードとバスラで多数を獲得した。イラク人は継続する不安定な状況に強い嫌気を感じており、政治的空白が物理的混乱を招いたり、新政権下で不安定が拡大する場合には、マーリキー待望論が復活する可能性も高い。

米政府は選挙の終了を歓迎し、世俗派の台頭を評価する西側の論調も強いようだが、イラク政治の不透明感は、かつてよりも強くなったようである。今後の数カ月は、その後数年のイラク情勢に大きな影響を与えそうである。